



## 『新しい「学習評価」と教育における3つの柱について』

2020年度より公立小学校、2021年度より公立中学、さらに翌年には公立高校において学習評価の方式が変更されます。新学習指導要領における新たな仕組みの中で行われる教育に伴う評価法。新たに設けられた教育における3つの柱。では、新しい評価法とはどんな仕組みなのでしょう。

新学習指導要領における評価法を簡単に言い表すなら「**評価の対象軸の数と観点の数を3つに合わせた**」ということです。現在の学習評価における評価の対象は、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」の3項目であるのに、観点は「知識・理解」「技能」「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」の4観点で評価する方法を取っていました。そのため、「知識・技能」という評価の対象は「知識・理解」と「技能」に

分かれて評価されるなど複雑で、**何を頑張れば成績が上がるのか非常に分かりづらい**ことがありました。しかし、新しい評価法の3つの柱（**1.知識・技能 2.思考力・判断力・表現力等 3.学びに向かう力・人間性等**）はそれぞれ、「知識・技能」「思考力・表現力・判断力」「**主体的に学習に取り組む態度**」の評価軸で数値化されることになり、概ね分かりやすくなったと思われます。（もちろん、教科担当の主観が入ることは否定できませんが…。）

観点別評価の組み合わせ	評定と基準
A <sup>○</sup> 十分満足 程度高 (5) A 十分満足 (4) B おおむね満足 (3) C <sup>○</sup> 努力を要する (2) C 一層努力を要する (1)	
A <sup>○</sup> A <sup>○</sup> A <sup>○</sup> 15 A <sup>○</sup> A <sup>○</sup> A 14	<b>5</b> (15点~14点)
A <sup>○</sup> A <sup>○</sup> B 13 A A A 12 A <sup>○</sup> B B 11	<b>4</b> (13点~11点)
A B B 10 B B B 9 B B C <sup>○</sup> 8	<b>3</b> (10点~8点)
B C <sup>○</sup> C <sup>○</sup> 7 C <sup>○</sup> C <sup>○</sup> C <sup>○</sup> 6 C <sup>○</sup> C <sup>○</sup> C 5	<b>2</b> (7点~5点)
C <sup>○</sup> C C 4 C C C 3	<b>1</b> (4点~3点)

A<sup>○</sup>=5点 A=4点 B=3点 C<sup>○</sup>=2点 C=1点

右に評価法と数値化の早見表がありますが、誰が見ても分かる通り「5」「1」が取りづらくなると断言できます。**3観点に一つでもBがいたら「5」の可能性が消えてしまいます。テストの点数（知識・技能）ばかりに気にしていても成績は上がらない**という傾向はより一層強くなります。特に「主体的に学習に取り組む姿勢」を学校の先生から評価されなければ、良い成績は今以上に難しくなります。積極的な発言や自主ノートなどの提出物こそ「主体的な姿勢」として評価され、自分の成績を高めてくれます。確かに、部活や学校の宿題、塾の宿題に追われてノートや提出物を仕上げる時間を取るのが難しいこともあるでしょう。でも、**ラ・サールなら君をサポートできます**。ラ・サール進学予備校では「知識・技能」の学習面だけでなく、テスト前に提出物を仕上げる時間を設定する等、「自主的に学ぶ姿勢」のサポートにも努めていきます。この機会に是非ともラ・サール進学予備校の学習意欲を刺激する授業を体験してください。（高津西 田中）

詳しくは最寄りの教室かフリーダイヤルまでお問い合わせください

☎ ラ・サール進学予備校 フリーダイヤル 0120-714-123